

令和8年度

学 校 評 価 【 計 画 書 】

加賀市立橋立海青学園 校長 中川 昇一 印

学校教育ビジョン 【学校教育目標】自ら考え行動し、多様な価値観を受け入れ、他を思いやり、共に社会を創る児童生徒の育成

〔めざす学校像〕
・子どもが通いたい学校
・保護者や地域が通わせたい学校
・教職員の働きがいのある学校

〔めざす児童生徒像〕
・考え行動し、よりよく学ぶ子
・仲間と共に成長する子
・思いやりと感謝の心を持つ子
・未来を生き抜く力を持つ子

〔めざす教師像〕
・寄り添い信頼される教師
・子どもに委ね待てる教師
・子どもと共に成長する教師
・組織を大切にする教師

【重点目標】
・自律した学び手を育てるための組織的な授業改善
・望ましい集団活動を通して、自己実現に向かう特別活動の充実
・ユニバーサルデザインを意識した、誰一人取り残さない学校づくり
・よりよい子どもを育てるための家庭、地域との連携

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果 (中間)	判定結果 (最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	児童生徒の主体的な意識に基づき、問いや課題を持って授業に臨み、試行錯誤を通して学びを振り返ることで、自分の学びを深化させる。	子どもを主役にした授業改善を推進し、様々な場面で自分の考えを発表したり、記述したりする力の育成を図る。	【企画部】 教務主任	<前期課程> 児童に委ねる学びを意識した授業に各教員が取り組んできた。子どもに委ねる授業の中でいろいろな方法で自分の考えを表現する場を設けたり「2文80文字」で考えをまとめたりする取り組みを行ってきた。	【成果指標】 授業で「2文80文字」やその他、いろいろな方法で自分の考えを表現する場面を取り入れることができた。	授業中、「2文80文字」を意識したり、いろいろな方法で自分の考えを表現する場面を設けたりしたと答えた教員が A:80%以上 B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	教職員アンケート			
				<後期課程> 学習内容の理解度に個人差があり、主体的に学びを進めたり、学びを振り返ったりすることにも差が見られる。	【成果指標】 生徒は、授業で挑戦と失敗をくりかえしながら、主体的に問いや課題の解決に取り組もうとしている。	授業では、「挑戦と失敗をくりかえしながら、問いや課題の解決に取り組んでいる」と答えた生徒の平均が A:70%以上 B:60%以上 C:50%以上 D:50%未満	生徒アンケート (ScTN)			
		自律した学び手になるためのねらい・教科のねらいについて、学校研究を通して明確にする。	【研究・学習指導部】 研究主任	<前期課程> 学年教科問わず委ねる学びを進められている。単元のねらいを意識した単元設計も行うことができているが、粘り強く課題解決に向けて取り組む態度の低下がみられ、継続して学びたいような導入、課題設定を意識した授業づくりが必要である。	【成果指標】 児童が学びたいような導入、課題設定、学習内容などを通して、児童が主体的に学ぼうとしている。	授業では自分の興味や関心に基づいて、自分なりに問いや課題の解決に取り組んでいると答えた児童の平均が A:80%以上 B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	児童アンケート (ScTN)			
				<後期課程> 昨年度の成果として授業の中で、他者の意見を取り入れ、自分の考えを広げたり深めたりすることができる生徒が増加した。一方、生徒が主役となり学習を進めていく点には課題が見られた。	【成果指標】 生徒が学びたいような導入、課題設定、学習内容などを通して、生徒が主体的に学ぼうとしている。	授業では、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学んでいる生徒が、 A:80%以上 B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	生徒アンケート (ScTN)			
				<前期課程> 生徒指導の4つの視点を意識した見取りや声掛けを行ってきた。協働的な学びに価値を感じられる児童は増えてきたが、個人差に課題が見られる。	【成果指標】 児童は多様な価値観を受け入れ、認め合い、支えあっている。	学級のみんなに関わることは、自分たちで、全員の考えや気持ちを確かめてから決めていると回答した児童が、 A:80%以上 B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	児童アンケート (ScTN)			
				<後期課程> 生徒指導の4つの視点を意識した見取りや声掛けを行ってきた。今まで以上に授業や行事を通して、学年を超えた交流を深め、学びの集団づくりを推進していく。	【成果指標】 生徒は学びの集団として、対話的に学習に取り組もうとしている。	グループや班で学んでいて、メンバーの関係が上手く行かなくなっても、協力し合える方法を自分たちなりに考えて、全員で学習をやり遂げていると答えた生徒が A:80%以上 B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	生徒アンケート (ScTN)			
②生徒指導 ※いじめの未然防止	学校全体でいじめの未然防止に努め、安全安心な学級・学校づくりを推進する。	いじめの未然防止に向けて、生徒指導の4つの視点を意識した学級経営や授業づくりを組織的に進める。	【生徒理解部】 生徒指導主事							

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果 (中間)	判定結果 (最終)	今後の改善策
③キャリア教育・進路指導	9年間の成長を見据え、各学年の連携を図りながら、将来に向かって希望や夢、目標をもち、主体的に生きる意欲や態度を育成する。	中学校卒業をゴールとして見据え、自己のキャリア形成を図るために、キャリアパスポートを活用した振り返りを行う。	【研究・学習指導部】 進路指導	<前期課程> キャリアパスポートの活用を行事の振り返りを中心に実施することに加えて、自己理解や自分や友達の良いところ見つけをするなど自己理解の機会を増やしている。	【成果指標】 キャリア教育の取組後の振り返りを行うことで、児童の自己肯定感を高めることができた。	自分にはよいところがあると答えた児童の割合が A:90%以上　B:80%以上 C:70%以上　D:70%未満	児童アンケート			
				<後期課程> 行事などを通して、自分や周りの成長に気づくことができたことや、各学年で将来の生き方を考える取組を行ったことで、自分の将来について考える生徒が増えた。	【成果指標】 全教育活動の取組を通して、自己にふさわしい将来の生き方について考えることができた。	自分の将来について考えることができたと答えた生徒が A:90%以上　B:80%以上 C:70%以上　D:70%未満	生徒アンケート			
④保健管理	自己調整力を働かせ、健康な体を作ろうとする態度を育てる。	「元気アップ週間」の活用や学校保健委員会における児童生徒の主体的な取組で、生活習慣の改善を図る。	【保健指導部】 養護教諭	就寝時間やメディア使用時間に課題のある児童生徒が多いため、規則正しい生活習慣の確立をめざしている。	【成果指標】生活習慣改善のための目標を立て、それを意識して取り組むことができた。	自分の生活習慣の目標を意識できた児童生徒が A:80%以上　B:70%以上 C:60%以上　D:60%未満	元気アップカード			
⑤安全管理	安全教育を推進し、児童生徒の命を守る意識を高める。	教職員の訓練や研修を継続するとともに、事前学習の実施や訓練の工夫で、児童生徒の危機対応力も醸成する。	【総務・事務部】 教頭	訓練の工夫で、児童生徒の防災への意識を高めるとともに、どのように訓練中対応すべきか、教職員間の自主的な事前協議も行われている。	【成果指標】 危機を想定した訓練や研修で、危機対応が必要であることへの意識が高まった。	自分自身の危機対応能力が身についたと感じる教職員が 訓練でその場に応じた危機回避の行動ができると感じた児童生徒が A:90%以上　B:80%以上 C:70%以上　D:70%未満	教職員アンケート 児童生徒アンケート			
⑥特別支援教育	インクルーシブ教育の視点で、一人ひとりのニーズに合わせた支援を提供し、誰一人取り残さない教育的環境を整える。	定期的に校内特別支援委員会や支援会議を開催し、必要に応じて迅速な対応を協議する。また、教育支援員やSSRの配置、運営を計画的に行い、組織的に対応にあたる。	【生徒理解部】 特別支援教育 コーディネーター	通常学級において、学習面や行動面で特別な支援を必要とする児童生徒は多いと思われる。SSR、教育支援員、教育相談、支援会議や専門相談等を活用し、必要な支援につなげていくことを進めている。	【成果指標】 校内特別支援委員会や支援会議、研修等を通じて、一人ひとりの教育的ニーズに合わせた支援を提供することができた。	一人ひとりの教育的ニーズに合わせた支援を提供することができたと答えた職員が A:90%以上B:80%以上 C:70%以上D:70%未満	教職員アンケート			
⑦組織運営・業務改善	3主任の横のつながりと前後期の縦のつながりを活かした義務教育学校の教育課程を確立する。	学校経営会議やミーティングデーを活かし、各主任が軸となった協議で教職員の共通理解を図り、義務教育課程を実践する。	【総務・事務部】 教頭	各主任が、職員会議や主任会議等で9年間の義務教育課程を意識した提案や協議が増えてきた。	【成果指標】 3主任を軸として前後期のつながりを活かした義務教育課程を実践することができた。	ミーティングデー等を活用し、前後期の情報共有・共通理解の工夫を図りながら9年間の義務教育課程の実践ができたと答えた教職員が A:90%以上　B:80%以上 C:70%以上　D:70%未満	教職員アンケート			
⑧研修	義務教育学校として組織的な研修体制を整え、教職員の授業力向上を図る。	教員の授業力向上に向けて授業作りや学級の土台作り、効果的なICT活用などの校内研修・OJTを行う。	【企画部】 教務主任	OJT「びーぷれ」やICT活用の校内研修を行い、教職員の学ぶ機会を設けている。	【成果指標】 積極的に研修に参加し、授業力向上に努めることができた。	校内研修・OJTに積極的に参加し、授業力向上に努めたと答えた教員が A:90%以上　B:80%以上 C:70%以上　D:70%未満	教職員アンケート			
⑨保護者、地域との連携	地域、保護者と連携し、「地域とともにある学校づくり」を進める。	地域の方や保護者に学校行事や授業に参加していただく。	【総務・事務部】 教頭	地域・保護者の協力体制が整っている。行事や授業等で、よりよい連携を進めている。	【成果指標】 地域・保護者・学校が連携を深め、取組が精選された。	地域・保護者・学校が連携を深め、取組が精選されたと答えた教職員が A:80%以上　B:70%以上 C:60%以上　D:60%未満	教職員アンケート			
⑩教育環境整備	Chromebookの使い方の校内研修や使用例を紹介するなどして、Googleドライブの利便性や操作性の向上を実感できるようにする。	Googleドライブを使用することで効率的に業務を進められる環境づくりを行う。また、授業においてもGoogleドライブを使用する機会を増やす。	【企画部】 GIGAスクール 推進リーダー	word等との互換性が低いこともあり、Chromebookを使用して授業をする習慣のない先生には、Googleドライブの利便性があまり伝わっていない。	【成果指標】 Chromebookの校内研修などを通して、Googleドライブの利便性や操作性の向上を実感できた。	Chromebookの校内研修などを通して、Googleドライブの利便性や操作性の向上を実感できたと答えた教職員が A:90%以上　B:80%以上 C:70%以上　D:70%未満	教職員アンケート			